

平成27年度 西東京市立明保中学校 学校関係者評価表

学校教育目標 平和で民主的な社会の形成者として、真理を求め、自主的精神に満ちた人を育成するために、次の目標を定める。  
すすんで学び 心身ともに健康で 思いやりのある人になる

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ・落ち着いた教育環境の中で、一人一人の個性や能力を伸ばすことができる学校
- 【目指す児童・生徒像】 ・すすんで学び、心身ともに健康で、思いやりのある生徒
- 【目指す教師像】 ・あふれる愛情をもって、厳しく鍛えることのできる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・学力調査の結果でも国や都・市の平均を上回っているが、基礎学力不足の生徒も多い。
- ・基本的な生活習慣が身につけているが、自主的な活動が苦手な生徒が多い。

	具体的方策	学校自己評価		学校の取組み及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		努力目標	成果目標			
確かな学力の向上	土曜学習教室を、年間15回以上開催する	4	5	各学年20%以上の参加を目標としたが、53名(17.4%)であった。参加者は一生懸命取り組んで、充実していた参加人数は部活動との関係であり増えなかった。	5	・部活もやっていない生徒が参加なので、良く参加していると思う。 ・過去参加した人の体験談や感想など伝えると理解が深まる。 ・保護者、生徒にとって受験対策は大変なものです。ここ数年明保中学校の都立高対策は充実していると思います。
	英検受験講座を2講座年間15回以上開設し、英検受験者をのべ人数、150人以上参加させる。 昨年の英検受験者107名	5	5	地域協力者を2名講師として英検講座を15回以上開催でき、参加者は、67名であった。英検受験者は162名(53%)であった。	5	・講師をお迎えしての講座はとても良い。 ・英検が定着しているのがとても良い。 ・英検受験者162名の参加は生徒の学習意欲の表れだと思います。
	漢字検定を年3回、校内実施をし、延べ人数200名以上参加させる 昨年の受験者は175名	5	5	漢検受験者は186名(61%) 今年は、過去問を各学年の廊下へ常時展示し、自由に問題を解けるようにして意識を持たせた	5	・過去問など自由に持ち出せるのはとても良い。 ・漢検受験者186名は学校としての努力の結果です。今後も取り組みを継続して実施していくことが大事
	数学検定を校内実施をし、延べ人数50名以上参加させる 昨年度の受験者は25名	5	5	数学検定受験者は50名(16%) 昨年より少し増加したがまだ、英検、漢検に比べると参加人数が少なく、講習会等実施しながら人数を増やしていく	5	・事前講習会など実施して、増やして欲しい ・数学離れが進んでいると言われる中、学校で数検を実施できるのは大変良い。 ・もっと数検をアピールできれば良い。例えば、過去問を配る、講習会を開くなど。
	学力の基本となる言語能力・読解力等の向上を図るため読書活動を推進し一人10冊以上読ませる。(昨年では、平均10冊以上読んだが、10冊以上の生徒は40%であった。)	1	4	・昼休み毎日、図書館を開放、さらに、放課後は隔日で開放して読書や学習環境の充実に努めた。 10冊以上読んだ生徒は137名(45%) 昨年度よりわずかに増えたが、目標には届かなかった。 これからも、図書館司書教諭との連携を図りながら、読書の充実に図る。	4	・読書量の少ない生徒に対して、個別に支援していけばもう少し増えるのでは。 ・毎日昼休み開放することはとてもよい子である。居場所を求める生徒にとってありがたいことだと思います。 ・全校朝読書は、登校時刻にゆとりを持って登校できたこと、基本的な生活習慣の定着につながった。読書活動に関心を持たせ思考力・読解力が高まったことなど評価できます ・本読むきっかけがたくさんあり学校の指導を評価します ・いろいろなボランティアに参加してとても良い。 ・緑羽募金、障害のある方々の描いた絵の販売等はとても良いと思います。
豊かな心の育成	ボランティア部や生徒会によるボランティアを推進すると共に地域ボランティアに積極的に参加させる。250人以上の生徒の参加を目指す。	3	5	避難所設営訓練・東小学校の夏祭り、冬祭り・どんど焼き 音楽部の児童館での講演、ボランティア部の地域清掃 延べ人数で150人参加した。 達成率は60%であり、課題は地域や小学校と連携したボランティア活動の充実をはかる必要がある	5	・子供家庭支援センターとの連携授業はとても素晴らしい取り組みである。 ・家庭でも人権について話し合う機会ともなりとても良い。 ・自分で考える機会をたくさん得られると良い。 ・今後も学校全体として人権感覚を高める取り組みを期待します。
	人権に関する授業、講演会等年間、5回以上実施する。	5	5	子供家庭支援センターとの連携授業、市内生活指導主任会との連携授業、人権課題アイヌ・障害者・子供等の講演会を開催し、豊かな心の育成を図ることができた	5	・子供家庭支援センターとの連携授業はとても素晴らしい取り組みである。 ・家庭でも人権について話し合う機会ともなりとても良い。 ・自分で考える機会をたくさん得られると良い。 ・今後も学校全体として人権感覚を高める取り組みを期待します。